報告

故 足田 泉先生の御葬儀に参列して

佐伯史談会副会長　羽　柴　　弘

我らが史談会顧問、郷土史研究の先賢指導者、堅田城八幡宮司足田泉先生氏、去る十二月二十日夜、遂に逝かれた。享年九十二歳の御高齢であった。

先生が御病気の故に神社祭式の御奉仕も自重されていることは承知していたが、再びお元気になり、お話など伺うことを秘かに期待していたが、そのことはもう叶わぬなくなった。「足田先生、癒ゆ」とのことに、一日私は会を代表してお見舞に参上し、東京から帰られていた令息通文氏から御容態を承ったが、その時はすでに枕辺にお伺いすることも御遠慮とせねばならぬ段階のようであったが――。さながら大樹の倒れるが如く足田先生は逝かれた。

星一つ御霊の空に光るごと　足田先生神去りましぬ

一日おいた二十二日、それは朝霜の深い日であった。午後一時から沒日のお宮で行われる御葬儀に、高木会長外会員の方々と参列した。

まつ白な棺は、庭に面したお座敷の正面に安置され、霜にやゝ慄けた榊やくさぐさの花が供えられ、表厳清楚まことに先生の御葬送にふさわしいと拝した。

式は多論神式で、しめびやかに奏する楽の音が一入かなしみを誘い、若宮八幡宮祢方宮司によって厳かに執行された。佐伯市長や大分県神社庁、氏子総代会、遺族会それぞれの代表の後をうけて、高木会長は史談会よりの弔辞をささげたが、小学校教諭の何年かの外は、殆んどの生涯を神職としての奉仕に過され、無形文化財佐伯神楽の保存に当られた功績をたたえるものであるが、九十二年の長い御生涯、サイドワークとしての堅田郷を中心とした郷土史の開発研究、庶民生活資料の調査蒐集も、識者に高く評価されるものである。

夏榊も　かおる黄菊もしら菊も　大人の面影の
しのばるるかな

みひつぎに対うてなでぼ庭の上　小春日和たか
羽ばたび交う

足田先生は私共の大先達であった。佐伯地方に於ける郷土史の空白堅田郷に足田先生あることが、いかに私共の力づけとなっていたことか。私共は過去、もう十回にちかく堅田郷に足を入れたが、殆んどその都度先生をお訪ねし、よく整理されている尨大な冊数の資料記録を拝見し、御教示や励ましを頂いて日古跡踏査に出かけることを楽しみにしていたが、もうそれは叶わなくなった。

先生の誠実な教育者としてのお若い日の姿、謹厳実直な通した神職としての御生涯、そして先賢郷土史家としての業績、それを今この狭い低面で述べることは出来ない。ただただ慈父を失ったようなさびしさをひしひしと身に感ずるのである。

御病臥の夫人が遺族席にお姿を見せられ、かなしみを押して玉串を祭壇の方に托して捧げられたのを遠目に拝見して、御胸中をお察ししたが、この御葬儀がお障りないよう祈りたい。

とり敢えず誌して、我らが今はさき顧問足田先生の御冥福を祈り、紙上に弔意を述べて、併せて会員諸氏にお知らせする次第である。

（二十四日午後記す）